

復興元年



復旧・復興から 「人・暮らし・環境が活きる交流拠点都市」へ

白石市長 風間 康 静

新 年明けましておめでとーう
 ございます。市民の皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、お喜び申し上げます。

昨年を振り返ると、東北楽天ゴールデンイーグルスが日本一に輝くなど、明るい話題が宮城県内にたくさん笑顔と大きな経済効果をもたらしました。

本市においては、北海道登別市と姉妹都市の盟約調印を行ってから30年という記念すべき年であり、相次いだ企業進出や全国の開基ファンの注目を浴びた第68期本因坊戦が本市で開催されるなど、東日本震災からの復興に向けて大きく前進した年でもありました。

新年はこれらの追い風を弾みに、さらに復興を加速させなければなりません。残りわずかとなった本年度は、「白石市東日本震災復興計画」の復旧期の最終年度。公共施設や市道・下水道などのライフラインの復旧は順調に進み、ほぼ震災前の風景を取り戻していますが、防災庁舎の建設や新たな地域防災計画の策定など安全基盤をさらに整え、復旧から復興へ大きくシフトさせてまいります。

子どもも空間や公園を含む公共施設から除染対象区域内民有地の除染作業へと移行しており、一刻も早く原発事故前の安心・安全な生活環境を取り戻すため、鋭意努力してまいります。

本市は、復興を最優先に、「共汗・共学・共生」のもと、第五次白石市総合計画で掲げる「人・暮らし・環境が活きる交流拠点都市づくり」に全力で取り組んでまいります。これには、雇用と交流人口の拡大を図っていくことが最も重要です。さらなる企業誘致や本市の観光資源を活かしながら、多くの人に訪れていただけるイベントの開催など、市民の皆さまとともに「おもてなし」の気持ちで交流人口を拡大。また、市内活性化のため、3年連続で震災復興割増商品券支援事業を実施するなど、活力ある白石の再生を進めてまいります。

本年も、海老名市と姉妹都市関係を締結して20周年、そして白石市が誕生して60周年と追い風が続きます。これを契機に、「午年」らしく、交流拠点都市を目指し復旧から復興へ力強く走り続けてまいります。

結びに、この一年が皆さまにとって、健やかで実り多い年となるようご祈念申し上げ、新年のごあいさついたします。

市民の皆さまの代表として 分かりやすく、期待に応えられる議会へ

白石市議会議長 保科 惣一郎

市 民の皆さま、明けましておめでとーうございます。ご家族おそろいで輝かしい新年をお迎えのことと、お喜び申し上げます。

東日本震災から早いもので3年を迎えようとしております。本市においても、道路などの復旧はほぼ完了しつつありますが、福島第一原子力発電所事故による放射能汚染にかかる諸問題については、当市の商工業・農林業・観光業など産業全体に甚大な被害を及ぼしただけでなく、市民の皆さまの健康、特に子どもたちの健康に不安を与えてきました。

こうした状況の中、「白石市除染実施計画」に基づく除染と「市独自除染」を実施。幼稚園や保育園、小中学校、公園など子ども空間の除染が終了したことによる空間放射線量の低減で、園庭や校庭で元気に活動する子どもたちの姿に、復興の兆しを強く実感しているところであります。今後、除染実施区域内の民有地などの除染が始まりますが、この一連の放射能問題の解決をみるには、まだまだ時間がかかるものと思っております。

一方、市議会においても、東京電力に補償を求める要望書を提出するなどの活動を行ってま

いりました。今後も引き続き粘り強く、議員一丸となって市民生活の安心・安全のために活動してまいります。

「人・暮らし・環境が生きる交流拠点都市づくり」を重点戦略とした第五次白石市総合計画は、本年で4年目を迎えることとなります。また、昨年の登別市姉妹都市締結30周年引き続き、本年は海老名市との姉妹都市締結20周年を迎えます。さらに、本市も市制施行60周年を迎えることとなり、これを大きな節目として、豊かな自然環境、歴史・伝統、生活文化等を活かした交流拠点都市づくりに一歩一歩確実に歩んで行きたいものです。

そして、市議会も市民の皆さまの代表として、議会本来の役割を果たすべく、一昨年立ち上げた議会改革検討委員会主導のもと、議員研修会を開催し、これまで以上に市民の皆さまに分かりやすく、期待に応えられる議会を目指して検討を進めているところであります。市民の皆さまにおかれましては、今後とも格別なご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本年も、皆さまにとりまして幸多き年でありますよう議員一同ご祈念申し上げます。年頭のごあいさついたします。